

教 職 科 目

授業科目名 (ナンバリングコード)	教師論 (151AO-1300)		授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)						
担当教員名	山本 一生				補助担当者名							
単位数	2 単位		履修年次	1年次	受け入れ人数	180名程度						
授業の概要	教育とはどのような営みか、学校は何をすることか、教師の仕事とは何か、といった原理的な問いについて概説する。こうした問いを大切にしながら、教職の専門性の基礎をなす教養を身につくことが期待される。											
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法								
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %			
			授業	テスト	レポート	発表						
					○					○		50
			○									50
□技能 的領域												
成績評価の基準	授業への取り組み（50％）、小レポートと筆記試験（50％）による総合評価を行い、60点以上の者を合格とします。											
テキスト、教材 参 考 書	・テキストは、次のものを購入すること。 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）『高等学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省） ・参考書として、次のものを推薦する。『ワークで学ぶ教育学』井藤元編（ナカニシヤ出版、2015年、2500＋税）											
履修条件・ 関連科目	教職関連科目全般		備考(教員メッセージ含む)		事前に配付された資料プリントや予告されたテキストの指定箇所については予め熟読して授業に臨むこと。							
オフィス・アワー	随時。											
授業計画												
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)							
1	山本 一生	開講にあたって（ガイダンス）			授業資料の復習（30分）							
2	〃	教職の意義と役割、教育課程と教員免許制度			授業資料の復習（30分）							
3	〃	教員の職務内容、教職の特性			授業資料の復習（30分）							
4	〃	学級経営、チーム学校としての運営			授業資料の復習（30分）							
5	〃	現代社会と学校教育（１）——教育課程と学力の問題			授業資料の復習（30分）							
6	〃	現代社会と学校教育（２）——学校で培われるジェンダーの問題			授業資料の復習（30分）							
7	〃	現代日本の教育理念（１）——教育基本法（旧法と新法）			授業資料の復習（30分）							
8	〃	現代日本の教育理念（２）——学習権の保障			授業資料の復習（30分）							
9	〃	現代日本の教育理念（３）——教育の自律性			授業資料の復習（30分）							
10	〃	教職の専門性を考える（１）——教職の意義と教師の役割			授業資料の復習（30分）							
11	〃	教職の専門性を考える（２）——教師の職務内容			授業資料の復習（30分）							
12	〃	教職の専門性を考える（３）——研修・服務・身分保障			授業資料の復習（30分）							
13	〃	教員養成制度の改革			授業資料の復習（30分）							
14	〃	ライフイメージのなかで教職を考える——進路選択のために			授業資料の復習（30分）							
15	〃	授業のまとめ、振り返り			授業資料の復習（1時間）							
16	〃	学期末試験			授業の復習							

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育心理学 (151A0-1301)		授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)				
担当教員名	中本 浩揮				補助担当者名					
単位数	2 単位		履修年次	2年次	受け入れ人数	200名程度				
授業の概要	学校教育は児童生徒がより豊かな人生を送るための人格成長を発達過程を含めて考える必要がある。本授業では、そのような教育実践に欠かせない教育心理学の基礎知識として、個性を活かす児童生徒の理解、学習指導の方法、教育効果の評価を身につける。具体的には、個性を生かすための生徒理解として、発達、人格、動機づけ、学習指導の方法として、記憶のメカニズム及び学習理論の応用、さらに、教育効果の評価を適切に行うために学力観、教育評価の方法について学習する。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	教育現場で実践するための心理学的知識を説明できる。 教育心理学の知識に基づいて、教育現場での課題について考えることができる。	○	○			○		70
		■情意的領域	教育心理学の知見を教育実習や教育現場、あるいはスポーツの指導現場を想定しながら積極的な姿勢で学ぶことができる。	○						20
■技能的領域	各領域の講義内容に対して、適切なまとめができる。	○		○				10		
成績評価の基準	小テスト、授業後の感想、レポート、及び学期末試験を実施する。これらを総合して成績評価を行う。出席2/3未満の者は放棄扱いとし評価しない。									
テキスト、教材 参 考 書	テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配付する。 参考書：桜井茂男編「最新 たのしく学べる教育心理学」図書文化									
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)	受講人数が多いため基本的に1年生の受講は認めない。 毎回小テストを行うので、前回授業の復習をして授業に望むこと。					
オフィス・アワー	随時(707教員室)									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	中本 浩揮	オリエンテーション 教育心理学とは？				教育心理学の学修内容の復習(30分)				
2	〃	発達① 発達の捉え方と発達の一般法則				小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)				
3	〃	発達② 発達の規定因と教育観				小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)				
4	〃	発達③ 発達段階と発達課題～乳児期から幼児期まで～				小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)				
5	〃	発達④ 発達段階と発達課題～児童期から青年期まで～				小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)				
6	〃	人格① パーソナリティの諸理論				小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)				
7	〃	人格② パーソナリティの形成と測定				小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)				
8	〃	動機づけ① 動機づけ諸理論				小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)				
9	〃	動機づけ② 動機づけの規定因				小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)				
10	〃	動機づけ③ 教育と動機づけ				小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)				
11	〃	学習① 記憶のメカニズム				小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)				
12	〃	学習② 運動と記憶				小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)				
13	〃	学習③ 学習諸理論と教授方法				小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)				
14	〃	学級集団の理解				小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)				
15	〃	教育評価				期末試験に向けての復習(1時間)				
16	〃	学期末試験				期末試験に向けた復習(5時間)				

授業科目名 (ナンバリングコード)	特別支援教育 (151A0-1302)		授業形態	講義		授業科目区分		教職科目 (教職)		
担当教員名	栗山 靖弘					補助担当者名				
単位数	1 単位			履修年次	1		受け入れ人数		100名程度	
授業の概要	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児・児童・生徒が抱える学習上又は生活上の困難さの解決及び学校適応の促進のために、特別支援教育に関する制度の理念と仕組み、教育課程、発達障害等の特徴や支援、支援体制の構築について理解する。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標				成績評価の方法					
	D P で 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養 (指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	講義内容を理解し、意見をレポートに記述することができる。 特別支援教育に関する基礎的知識を身につけている。			○				40
		■情意的領域	授業に毎回参加し、レポートを提出する。また、グループワーク等に主体的に参加する。			○				60
		□技能的領域								
成績評価の基準	授業への参加および最終レポートを総合して評価する。 また、3回以上欠席した場合には単位は認定されない。									
テキスト、教材 参 考 書	特別支援学校学習指導要領（幼稚部・小学部・中学部・高等部）									
履修条件・ 関連科目	教職科目全般			備考(教員メッセージ含む)		レポート(授業時間と最終)が課されます。				
オフィス・アワー	随時：事前にメールでアポイントメントをとってください。 605教員研究室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	栗山 靖弘	インクルーシブ教育システム				授業資料の復習（30分）				
2	〃	特別支援教育に関する教育課程と個別の教育支援計画・個別の指導計画				授業資料の復習（30分）				
3	〃	障害のある子どもの特徴				授業資料の復習（30分）				
4	〃	障害のある子どもへの支援				授業資料の復習（30分）				
5	〃	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱のある子どもの特徴				授業資料の復習（30分）				
6	〃	母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある子どもの特徴				授業資料の復習（30分）				
7	〃	関係機関や家庭と連携した支援体制の構築				授業資料の復習（30分）				
8	〃	授業のまとめ				授業資料の復習（30分）				

授業科目名 (ナンバリングコード)	道徳の理論と指導法 (151A0-1303)		授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)			
担当教員名	山本 一生・栗山 靖弘				補助担当者名				
単位数	2 単位		履修年次	3	受け入れ人数	150人程度			
授業の概要	道徳と道徳教育について、その意義や原理、道徳性の発達の側面から理解する。また、現代社会における道徳教育の課題について考え、学校で取り組む道徳教育の役割と指導法、そして評価についての知識と技能を身につける。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
		■認知的領域	授業内容を理解し、自分の考えを述べることができる。 道徳教育を実践するための基本的な知識を身につけている。			○			50
		■情意的領域	授業に毎回出席し、主体的に授業に参加する。 課題に対して意欲的に取り組む。	○					50
□技能的領域									
成績評価の基準	授業への参加状況・レポート・課題提出状況を総合的に評価します。								
テキスト、教材 参 考 書	テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』(平成29年告示)156円＋税 参考書：必要に応じて、授業中に随時紹介します。また、参考資料は適宜配付します。								
履修条件・ 関連科目	教職科目全般			備考(教員メッセージ含む)	授業内での小レポート作成、「特別の教科 道徳」の学習指導案の作成課題、模擬授業があります。				
オフィス・アワー	随時対応。事前にメールでアポイントメントを取ってください。 栗山：研究棟6階 605教員研究室								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	山本 一生	オリエンテーションー道徳教育とは何か			授業資料の復習(30分)				
2	〃	道徳教育の意義と課題			授業資料の復習(30分)				
3	〃	道徳性の発達に関する理論			授業資料の復習(30分)				
4	〃	道徳教育の歴史①戦前の修身教育			授業資料の復習(30分)				
5	〃	道徳教育の歴史②戦後教育における道徳教育			授業資料の復習(30分)				
6	栗山 靖弘	学習指導要領と道徳教育			授業資料の復習(30分)				
7	〃	道徳科の内容と指導法			授業資料の復習(30分)				
8	〃	学校における道徳教育の取り組み			授業資料の復習(30分)				
9	〃	道徳教育の年間計画と学習指導案			授業資料の復習(30分)				
10	〃	道徳の評価			授業資料の復習(30分)				
11	山本 一生 栗山 靖弘	模擬授業の準備			授業資料の復習(30分)と模擬授業の準備(1時間)				
12	〃	模擬授業			授業資料の復習(30分)および模擬授業の振り返り(30分)				
13	〃	模擬授業			授業資料の復習(30分)および模擬授業の振り返り(30分)				
14	〃	模擬授業			授業資料の復習(30分)および模擬授業の振り返り(30分)				
15	〃	模擬授業			授業資料の復習(30分)および模擬授業の振り返り(30分)				

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合的な学習の時間の指導法 (151A0-1304)		授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)			
担当教員名	山本 一生・栗山 靖弘				補助担当者名				
単位数	1 単位		履修年次	3		受け入れ人数	100名程度		
授業の概要	授業の前半では、学習指導要領や実践事例の理解を通じて、総合的な学習／探究の時間の目標・内容・評価等についての理解を深める。後半では、指導計画の作成をベースに、発表とディスカッションを行い、総合的な学習／探究の時間の単元構成ができるようになることを目指す。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養 (指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養(コミュニケーション力、キャリアデザイン力、課題解決力))	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	「総合的な学習の時間」の基礎的な意義・目標・内容について、説明することができる。 「総合的な学習の時間」における課題解決のプロセスと指導方法を説明することができる。			○				50	
□情意的領域									
■技能的領域	他の受講者とコミュニケーションを取りながら、「総合的な学習の時間」の指導計画を作成することができる。			○	○			50	
成績評価の基準	レポート、発表および授業への積極的な参加の度合いを総合的に評価する。								
テキスト、教材 参 考 書	・毎回、資料を配付する。 ・テキストは以下のものを購入すること。 ①「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編」(文部科学省、2019年、228円＋税) ②「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編」(文部科学省、2019年、270円＋税) ・その他、参考文献は適宜紹介する。								
履修条件・ 関連科目	教職科目全般		備考(教員メッセージ含む)		中学校・高等学校の教員免許状の取得を目指している者は履修すること。				
オフィス・アワー	栗山：随時(事前にメールでアポイントメントをとること)、605教員研究室								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	栗山 靖弘	総合的な学習／探究の時間の目標と意義			授業資料の復習(30分)				
2	〃	総合的な学習／探究の時間の目標と内容① (横断的・総合的な課題と学習)			授業資料の復習(30分)				
3	〃	総合的な学習／探究の時間の目標と内容② (地域や学校の特色に応じた課題)			授業資料の復習(30分)				
4	〃	総合的な学習／探究の時間の授業方法			授業資料の復習(30分)				
5	山本 一生	総合的な学習／探究の時間の評価			授業資料の復習(30分)				
6	〃	総合的な学習／探究の時間の年間指導計画・単元計画の事例			授業資料の復習(30分)				
7	〃	総合的な学習／探究の時間の単元計画の作成			授業資料の復習(30分)				
8	〃	単元計画の発表とディスカッション			最終レポートに向けて、授業内容全体を復習する (1時間)				

授業科目名 (ナンバリングコード)	特別活動論 (151A0-1305)		授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)							
担当教員名	浜田 幸史・梶 ちか子				補助担当者名								
単位数	1 単位		履修年次	3年次	受け入れ人数	170名程度							
授業の概要	集団生活を営む学校において、集団活動や体験的な活動を通してよりよい人間関係形成能力を育成する特別活動は、「学級活動」、「生徒会活動」、「学校行事」から構成されている。この活動は、社会に参画するために必要となる自主的・実践的な態度や自治的能力を育成する観点からも重要な要素を含んでいる。本授業では、特別活動の趣旨、その目的、具体的な活動内容や教育課程上の位置付けなどについて、基礎的な理解を深めながら教師の適切な関わり方など学校生活における実践的な取組を学ぶ。												
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法									
	D Pで 目指す 資質・ 能力	一般教養・倫理、専門的な知識・教養 (指導者基礎力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %				
			授業	テスト	レポート	発表							
		■認知的領域	特別活動の意義、特別活動を構成している「学級活動」、「生徒会活動」、「学校行事」の特質について理解している。			○					○		50
		■情意的領域	特別活動の意義等を理解するために、積極的に授業に参画しようとする。	○						○		30	
■技能的領域	特別活動を構成している「学級活動」、「生徒会活動」、「学校行事」の具体的な実施計画や工夫に富んだ通信物を作成することができる。	○		○				20					
成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとりの割合で、授業への参画状況や、レポート、定期試験等の内容から総合的に評価します。また、3分の2以上の出席がない場合、履修放棄と見なし、定期試験の受験を認めません。												
テキスト、教材 参 考 書	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編』												
履修条件・ 関連科目	関連科目は、教職科目全般です。			備考(教員メッ セージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適 応できるよう指導していきます。よりよい学級、学年、学 校をつくるために特別活動を推進できる教員を目指しても らいたいです。								
オフィス・アワー	随時：浜田（研究棟6階608教員研究室） 梶（研究棟7階703教員研究室）												
授業計画													
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)								
1	浜田 幸史 梶 ちか子	オリエンテーション、特別活動とは			授業内容の復習（30分）								
2	〃	特別活動に期待される教育の効果			授業内容の復習（30分）								
3	〃	学級活動			授業内容の復習（30分）								
4	〃	生徒会活動			授業内容の復習（30分）								
5	〃	学校行事			授業内容の復習（30分）								
6	〃	特別活動のデザイン テーマを基にした実施計画の作成			授業内容の復習（30分） 実施計画の作成（2時間）								
7	〃	特別活動への教員の適切な関わり テーマを基にした通信物の作成			授業内容の復習（30分） 通信物の作成（2時間）								
8	〃	授業のまとめ、学期末試験			学期末試験内容の復習（30分）								

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育の方法と技術 (151A0-1312)		授業形態	講義		授業科目区分		教職科目 (教職)		
担当教員名	栗山 靖弘					補助担当者名				
単位数	1 単位		履修年次	2		受け入れ人数		150人程度		
授業の概要	学校における「授業づくり」を中心的に学ぶ科目である。特に、「授業」という営みを構成している要素や、主要な教授法について理解することを目的として講義を行う。学校現場の具体的な事例をとりあげながら、授業の設計と実施、指導案の作成等について考えていく。また、教育評価、授業研究、学力、知識に関する理論についても学習する。近年の学校現場では情報通信技術を用いた教育実践も行われているため、それらの機器の種類や基本的な使用法、メディア・リテラシーについても学習する。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、一般教養・倫理 (指導者基礎力、専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	教育方法・技術に関する基礎的知識と実践を理解している。 また、それをもとに自分の意見を述べることができる。			○				60
		■情意的領域	授業に毎回出席し、主体的に参加する。 課題に意欲的に取り組む。	○						40
□技能的領域										
成績評価の基準	授業参加状況・課題・レポートを総合的に評価表します。									
テキスト、教材 参 考 書	テキスト：特に指定しない。授業は配付資料を用いて行う。 参考書：授業中に必要に応じて紹介・配付する。									
履修条件・ 関連科目	教職関連科目全般			備考(教員メッセージ含む)		教員を志望している学生が受講していることを前提に講義を行います。 保健体育の教員は、保健と体育という、座学と実技の両方の授業を行わなければなりません。また、道徳や総合的な学習の時間、特別活動も担当することになります。そうした授業を実施するうえでの基盤となる知識や考え方を修得するための科目だと認識してください。				
オフィス・アワー	随時対応。事前にメールでアポイントメントを取ってください。研究棟6階 605教員研究室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	栗山 靖弘	学習指導の基本原理				授業の復習(60分)				
2	〃	指導技術の基礎				授業の復習(60分)				
3	〃	学習指導の形態				授業の復習(60分)				
4	〃	授業づくりの実際ー現場の教師の経験から				授業の復習(60分)				
5	〃	知識と学習				授業の復習(60分)				
6	〃	教育評価と授業研究				授業の復習(60分)				
7	〃	学習指導案				授業の復習(60分)				
8	〃	授業のまとめ				授業の復習(60分)				

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育とICT活用 (151A0-1313)		授業形態	講義		授業科目区分		教職科目 (教職)		
担当教員名	栗山 靖弘・和田 智仁・迫田 和之					補助担当者名				
単位数	1 単位		履修年次	2		受け入れ人数		160		
授業の概要	学校では、1人1台のICT端末を利用したGIGAスクール構想が進んでいる。その流れを受けて、これから教員を目指す学生に対し、ICTを活用した授業づくりや校務の遂行が求められている。そこで、本科目では、学校におけるICT活用の基礎的な内容の習得を目的として、理論と実践の両面から講義を行う。									
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	DPで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、一般教養・倫理 (指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な 知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	講義内容を理解し、説明することができる。		○	○				
		■情意的領域	教育におけるICTの活用に興味・関心を持ち、 主体的に課題に取り組むことができる			○				
■技能的領域	授業づくりにおいてICTを活用することができる。		○	○						
成績評価の基準	講義内容の理解、提出課題、テスト等の結果を総合的に判断して評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	スポーツ庁（2022）「児童生徒の1人1台のICT端末を活用した体育・保健体育授業の事例集」									
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッセージ含む)		授業では理論的な内容の講義と、講義内容を踏まえたワークの両方を行います。学生の積極的な参加を求めます。					
オフィス・アワー	栗山：随時（メールでアポイントメントをとってください） 和田：随時（メールでアポイントメントをとってください） 迫田：随時（メールでアポイントメントをとってください）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	栗山 靖弘 和田 智仁 迫田 和之	情報通信技術の活用の意義と理論①				授業資料の復習30分				
2	〃	情報通信技術の活用の意義と理論②				授業資料の復習30分				
3	〃	情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進①				授業資料の復習30分				
4	〃	情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進②				授業資料の復習30分				
5	〃	情報活用能力育成のための基礎的な指導法①				授業資料の復習30分				
6	〃	情報活用能力育成のための基礎的な指導法②				授業資料の復習30分				
7	〃	情報活用能力育成のための基礎的な指導法③				授業資料の復習30分				
8	〃	情報活用能力育成のための基礎的な指導法④・授業のまとめ				授業資料の復習30分				

授業科目名 (ナンバリングコード)	学校と教育の歴史 (151A0-1307)		授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)			
担当教員名	山本 一生				補助担当者名				
単位数	2 単位		履修年次	1年次	受け入れ人数	160名程度			
授業の概要	先人が行ってきた教育実践やその思想を歴史的に概観し、教育の基本的概念や本質について考えるとともに、過去から現在に至るまでの学校の変遷を理解する。前半は主に西洋の教育思想を扱い、後半は日本の教育制度、特に学校制度の歴史を扱う。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	一般教養・倫理、専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表			
		■認知的領域	講義内容について理解する。学校と教育の歴史における基礎的知識を身につけ、重要事項について説明できる。教育の現代的課題について、歴史的視点から客観的に考えることができる。					○	50
		■情意的領域	授業に毎回出席をし、主体的に授業に参加する。意欲的に課題に取り組む。	○					50
□技能的領域									
成績評価の基準	授業参加状況、小レポート、学期末試験を総合的に評価します。								
テキスト、教材 参 考 書	テキスト：『教育原理 (よくわかる! 教職エクササイズ)』ミネルヴァ書房、2018年 参考書：『増補改訂版 ワークで学ぶ教育学』ナカニシヤ出版、2020年ほか随時紹介します。								
履修条件・ 関連科目	教職課程を履修していること。		備考(教員メッセージ含む)		特になし。				
オフィス・アワー	随時								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	山本 一生	オリエンテーション、教育とは何か			授業資料の復習 (30分)				
2	〃	人間と文化			授業資料の復習 (30分)				
3	〃	古代ギリシア・ローマの教育			授業資料の復習 (30分)				
4	〃	中世ヨーロッパの思想と教育①：キリスト教と教育			授業資料の復習 (30分)				
5	〃	古代中国の思想、古代日本の教育			授業資料の復習 (30分)				
6	〃	中世日本の教育			授業資料の復習 (30分)				
7	〃	近世日本の教育：江戸時代の武士・庶民の教育			授業資料の復習 (30分)				
8	〃	中世ヨーロッパの思想と教育②：ルネサンスとヒューマニズム			授業資料の復習 (30分)				
9	〃	ヨーロッパの教育の近代化：子供の誕生・近代学校の誕生			授業資料の復習 (30分)				
10	〃	近代教育制度の成立と展開			授業資料の復習 (30分)				
11	〃	近代日本の教育①：学校制度の確立			授業資料の復習 (30分)				
12	〃	近代日本の教育②：大正デモクラシーと教育			授業資料の復習 (30分)				
13	〃	近代日本の教育③：戦時体制下の教育			授業資料の復習 (30分)				
14	〃	戦後の日本の教育改革			授業資料の復習 (30分)				
15	〃	これからの教育改革の動向：現代社会の教育課題			授業資料の復習 (30分)				
16	〃	学期末試験			授業の復習				

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育法・教育行政 (151A0-1308)		授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)				
担当教員名	森 克己				補助担当者名					
単位数	2 単位		履修年次	2年次	受け入れ人数	200名程度				
授業の概要	教育法・教育行政の理論や教育に関する法令等を解説することによって、受講生が教育法・教育行政の基礎知識を身につけることができるようになることを目標とする。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	一般教養・倫理、専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	教育法・教育行政の基礎知識を身に付ける。 教員採用試験の教育放棄の問題の解き方を身に付ける。		○			○		90
		■情意的領域	授業に積極的に参加し、復習問題に取り組む。	○		○				10
□技能的領域										
成績評価の基準	学期末試験の成績、小テストの成績、毎回の授業時に課される復習問題（レポート）への取組を総合的に評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	参考書：『ガイドブック教育法』（三省堂、新訂版）、朝倉征夫編『おさえておきたい教育法規』（酒井書店）『憲法と教育人権』（日本評論社）、『解説 教育六法』（三省堂、2019年版）									
履修条件・ 関連科目	特になし。		備考(教員メッセージ含む)		特になし。					
オフィス・アワー	森：水曜日、木曜日の午後（508研究室）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	森 克己	オリエンテーション：講義全体の構成・進め方の解説、教育行政・法規の基本原則			履修要項・シラバスの予習（10分以上）					
2	〃	教育法・教育行政の全体構造			テキスト・資料の予習・復習（30分以上）					
3	〃	教育の基本理念に関する規定①（日本国憲法教育関連規定）			テキスト・資料の予習・復習（30分以上）					
4	〃	教育の基本理念に関する規定②（教育基本法の規定①）			テキスト・資料の予習・復習（30分以上）					
5	〃	教育の基本理念に関する規定③（教育基本法の規定②）			テキスト・資料の予習・復習（30分以上）					
6	〃	教育の基本理念に関する規定④（教育基本法の規定③）			テキスト・資料の予習・復習（30分以上）					
7	〃	教育行政の理念と仕組み①（地教行法による教育委員会に関する規定）			テキスト・資料の予習・復習（30分以上）					
8	〃	教育行政の理念と仕組み②（地教行法による教育委員会に関する規定）+小テスト			テキスト・資料の予習・復習（30分以上）					
9	〃	学校教育に関する規定①（学校の管理・経費の負担）			テキスト・資料の予習・復習（30分以上）					
10	〃	学校教育に関する規定②（学校の目的・目標①）			テキスト・資料の予習・復習（30分以上）					
11	〃	学校教育に関する規定③（学校の目的・目標②）			テキスト・資料の予習・復習（30分以上）					
12	〃	学校と地域との連携①（学校評議員制度）			テキスト・資料の予習・復習（30分以上）					
13	〃	学校と地域との連携②（学校運営協議会制度）			テキスト・資料の予習・復習（30分以上）					
14	〃	学校安全への対応①（学校保健安全法の規定①）			テキスト・資料の予習・復習（30分以上）					
15	〃	学校安全への対応②（学校保健安全法の規定②）			テキスト・資料の予習・復習（30分以上）					
16	〃	学期末試験								

授業科目名 (ナンバリングコード)	介護等体験 (151A0-6300)		授業形態	実習	授業科目区分	教職科目 (教職)		
担当教員名	介護等体験小委員会				補助担当者名			
単位数	1 単位		履修年次	2年次	受け入れ人数	－		
授業の概要	高齢者や障がい者に対する思いやりや心の痛みについて理解し、各人の価値観の相違を認めることができる人間を育成する。 小学校、中学校教諭の普通免許状の取得に義務付けられている。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	コミュニケーション力、課題解決力、一般教 養・倫理 (コミュニケーション力、課題解決力、一般 教養・倫理)	授業期間			定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
		■認知的領域						
		■情意的領域						
■技能的領域								
成績評価の基準	事前指導のオリエンテーション、ガイダンス、ならびに 2 回の特別講義。 特別支援学校での 2 日間の実習、社会福祉施設での 5 日間の実習、それぞれに関するレポートの提出。 以上のいずれかが欠けた場合、単位は認定されない。							
テキスト、教材 参 考 書	適時配付する。							
履修条件・ 関連科目	中学校教諭一種免許状取得希望者は必ず履修すること。		備考(教員メッ セージ含む)		実習経費は自己負担です。特別支援学校での実習、社会福祉施設での実習、介護等体験賠償責任保険、の合計が 1 万円程度です。 特別支援学校及び社会福祉施設の職員が実習を担当します。			
オフィス・アワー	教務課キャリア支援係 8：30～17：15							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	介護等体験小委員会	オリエンテーション			復習（30分）			
2	〃	「特別支援学校での実習」の実習先、日程の調整と決定			実習施設の確認（30分）			
3	〃	「特別支援学校での実習」に向けての特別講義			復習（30分）			
4	〃	「社会福祉施設での実習」の実習先、日程の調整と決定			実習施設の確認（30分）			
5	〃	「社会福祉施設での実習」に向けての特別講義			復習（30分）			
6	〃	服装、身だしなみ、マナーの特別講義・実習			復習（30分）			
7	〃	特別支援学校での実習 2日間			日誌の作成（30分×2日）			
8	〃	社会福祉施設での実習 5日間			日誌の作成（30分×5日）			
9	〃	事後指導			復習（30分）			
10	〃	レポート提出			日誌の作成（30分×2日）			

授業科目名 (ナンバリングコード)	生徒・進路指導論 (151A0-1309)		授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)				
担当教員名	栗山 靖弘				補助担当者名					
単位数	2 単位		履修年次	3	受け入れ人数	150人程度				
授業の概要	生徒指導の意義や原理、学校現場での実際の進め方について理解することを目的とする。生徒指導の課題は時代とともに変遷している。そのため、生徒指導上の今日的課題を理解し、個別・集団での指導法や、教員間および専門家・関係機関との連携について理解する。さらに、生徒の人間形成を長期的な視点から支援することを目指す教育活動として、進路指導・キャリア教育の意義と指導法について理解する。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	講義内容を理解し、生徒・進路指導について自分の考えを述べるができる。学校教育を取り巻く諸問題について、その社会的背景や解決のためのアプローチを考察することができる。			○				60
		■情意的領域	毎回、授業に出席し、主体的に参加する。課題に意欲的に取り組む。	○						40
□技能的領域										
成績評価の基準	授業参加状況、レポートを総合的に判断して評価します。									
テキスト、教材 参 考 書	テキスト：文部科学省、2022、『生徒指導提要』（改訂版） 参考書：その他の参考書等は、必要に応じて授業中に随時紹介・配付します。									
履修条件・ 関連科目	教職関連科目全般		備考(教員メッセージ含む)		教員を志望している学生が受講していることを前提に講義を行います。					
オフィス・アワー	随時対応。事前にメールでアポイントメントを取ってください。研究棟6階 605教員研究室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	栗山 靖弘	生徒指導の意義と原理			テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)					
2	〃	教育課程と生徒指導			テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)					
3	〃	生徒理解と集団・個別指導の方法			テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)					
4	〃	学校における生徒指導体制			テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)					
5	〃	学級担任・教科担任の立場と役割等			テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)					
6	〃	居場所としての学級(規範意識の醸成および自己肯定感の育成)			テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)					
7	〃	生徒指導の実際―現場の教師の経験から			授業の復習(60分)					
8	〃	生徒指導の諸課題①生徒文化と少年非行			テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)					
9	〃	生徒指導の諸課題②情報・消費社会のなかの生徒			テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)					
10	〃	生徒指導の諸課題③いじめ問題			テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)					
11	〃	生徒指導の諸課題④不登校			テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)					
12	〃	生徒指導の諸課題⑤グループでの事例検討			テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)					
13	〃	進路指導とキャリア教育①キャリア教育の意義と位置づけ			テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)					
14	〃	進路指導とキャリア教育②ガイダンスとしての進路指導			テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)					
15	〃	授業のまとめ			授業資料の復習(60分)					

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育相談・カウンセリング論 (151A0-1310)		授業形態	講義		授業科目区分		教職科目 (教職)	
担当教員名	中本 浩揮・山下 協子					補助担当者名			
単位数	2 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		200名程度	
授業の概要	現代の教育現場では子どもの不適応あるいは発達障がいなど対応すべき事項が多様化している。そのため、教育相談における現代的課題の理解や解決に関する实际的に応用可能な基礎技能を身に付けることは教師としての責務といえる。本講義では、教育現場の事例を通して、カウンセリングの基礎、臨床現場におけるカウンセリングと学校現場における教育相談の違いについての理解を深める。また、様々な不適応行動や発達障がいに対する現状と心理学から見た理論・対処法の学習を通じて、教育相談の意義を理解したり、組織的な取り組みや連携の必要性について理解する。さらに種々の問題を予防する開発的カウンセリングとして、構成的グループ・エンカウンターの実践について体験を通して身に付ける。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、コミュニケーション力、専門 的な知識・教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	教育現場で生じる生徒の心の問題や発達障がいに 対処できる知識を身につける。	○	○	○		○		60
	■情意的領域	教育相談・カウンセリングの基礎理論や意義、 学校教育との関係に関する理解を深める。	○	○	○		○		20
	■技能的領域	子どもの自己理解・他者理解・社会性を発達 させる実践的スキルを身に付ける。		○	○		○		20
成績評価の基準	小テスト、授業後の感想、レポート、及び学期末試験を実施する。これらを総合して成績評価を行う。出席 2 / 3 未満の者は放棄扱いとし評価しない。								
テキスト、教材 参 考 書	テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配付する。								
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		受講人数が多いため基本的に 1 ・ 2 年生の受講は認めない。 。			
オフィス・アワー	随時(707教員室)								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	中本 浩揮	なぜ学校現場にカウンセリングが必要か？				カウンセリングの必要性について復習する(30分)			
2	〃	カウンセリングの基礎と生徒理解				カウンセリングの基礎について復習する(30分)			
3	〃	カウンセリングの基礎と傾聴技法				小テストに向けての復習(30分)			
4	〃	カウンセリングの体験 自己式カウンセリング				カウンセリングについての復習(30分)			
5	山下 協子	カウンセリングの実際と学校連携				小テストに向けての復習(30分)			
6	中本 浩揮	問題行動の実際 不登校				小テストに向けての予習(30分)			
7	山下 協子	不登校児の理解とカウンセリング的対応				小テストに向けての復習・レポート(1時間)			
8	中本 浩揮	問題行動の理解と教育相談				小テストに向けての復習(30分)			
9	〃	問題行動の実際 いじめ				小テストに向けての復習(30分)			
10	〃	問題行動の理解と対応 いじめ				小テストに向けての復習(30分)			
11	〃	開発的カウンセリングの考え方と現場での応用事例				予防的カウンセリングの予習と小テストに向けての復習(30分)			
12	〃	構成的グループ・エンカウンターの基礎と実際				小テストに向けての復習・レポート(1時間)			
13	〃	発達障がいの理解と対応① ADHD				小テストに向けての復習(30分)			
14	〃	発達障がいの理解と対応② 自閉症スペクトラム				小テストに向けての復習(30分)			
15	〃	教育・相談カウンセリングの総括				期末試験に向けての復習(1時間)			
16	〃	学期末試験				期末試験の復習(1時間)			

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育課程論 (151A0-1311)		授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)				
担当教員名	山本 一生				補助担当者名					
単位数	1 単位		履修年次	2年次	受け入れ人数	180名程度				
授業の概要	教育課程編成の原理・原則や編成の基準、今日的課題への対応等を概説し、学校における教育課程の位置付け並びに教育課程の歴史的変遷、学習指導要領の意義を理解する。また、これらの知識を活用した教育課程の実践についての学習ノートを作成し、説明ができるようにする。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	一般教養・倫理、専門的な知識・教養 (指導者基礎力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	学習指導要領総則を理解している。 教育課程の概念を説明している。					○		50
		■情意的領域	教育課程の理解に向けて、学習ノートなどを活用して意欲的に取り組もうとする。	○						50
□技能的領域										
成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記に示した割合で出席状況や期末試験等を総合的に評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	〈テキスト〉 文部科学省「中学校学習指導要領解説（総則編）」及び「高等学校学習指導要領解説（総則編）」									
履修条件・ 関連科目	「中学校教諭一種免許状（保健体育）」、「高等学校教諭一種免許状（保健体育）」を取得しようとする者は受講すること。 教職科目全般			備考(教員メッ セージ含む)	教育課程編成の一般方針や歴史的変遷などを学びます。本講座は時間割等を編成するための拠り所になります。					
オフィス・アワー	随時									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	山本 一生	教育課程とは何か 学校区分による日本の教育課程の編成				授業内容の復習（30分）				
2	〃	カリキュラム概念の成立と変遷				授業内容の復習（30分）				
3	〃	「顕在的カリキュラム」と「潜在的カリキュラム」				授業内容の復習（30分）				
4	〃	教育課程に関する法と制度				授業内容の復習（30分）				
5	〃	学習指導要領の歴史的変遷				レポート作成（2時間）				
6	〃	カリキュラム・マネジメント				授業内容の復習（30分）				
7	〃	主体性の育成				授業内容の復習（30分）				
8	〃	全体まとめと学期末試験				学期末試験内容の復習（1時間）				

授業科目名 (ナンバリングコード)	保健体育科教育法Ⅰ (152AO-1300)		授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (専門)			
担当教員名	浜田 幸史・梶 ちか子				補助担当者名				
単位数	2 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数 170名程度			
授業の概要	本授業では、保健体育教員を目指すためのガイダンスの内容を取り上げる。特に、保健体育教員として身に付けておかねばならない資質・能力に関する内容としての授業づくりや教材研究の進め方、部活動指導への関わり方などについて理解を深めることができるようにする。さらに、学級経営や生徒指導など学級担任として果たさなければならない役割等についても理解することができるようにする。また、都道府県及び政令指定都市における教員採用選考試験の内容についても調べ、見通しを立てながら計画的に準備を進めることができるようにする。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、専門的な知識・教養 (一般教養・倫理)	授業期間				定期 試験	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表			
		■認知的領域	保健体育教員として身に付けておかねばならない資質・能力や教育課題について理解している。			○		○	50
		■情意的領域	保健体育教員として身に付けておかねばならない資質・能力や教育課題について理解するために、授業に積極的に参画しようとする。	○			○		30
■技能的領域	教員採用選考試験の動向、運動部活動の在り方について考察したことをわかりやすく書き表すことができる。	○		○			20		
成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のと通りの割合で、授業への参画状況や、レポート、定期試験等の内容から総合的に評価します。また、3分の2以上の出席がない場合、履修放棄とみなし、定期試験の受験を認めません。								
テキスト、教材 参 考 書	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説保健体育編』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説保健体育編 体育編』 杉山重利・佐藤豊・園山和夫編著『新・目指そう保健体育教師』朝日出版社 伊藤博子著『保健体育教師になろう』大修館書店								
履修条件・ 関連科目	関連科目は、教職科目全般です。		備考(教員メッセージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適應できるよう指導していきます。 保健体育教員を目指すに当たってのガイダンスの内容を学習します。本科目を受講して教職についての理解を一層深め、保健体育科教育法Ⅱ～Ⅳの履修に向けての見通しを立ててください。					
オフィス・アワー	随時：浜田（研究棟6階608教員研究室） 梶（研究棟7階703教員研究室）								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	浜田 幸史 梶 ちか子	オリエンテーション、保健体育教員の仕事			授業内容の復習（30分）				
2	〃	我が国の学校と教員、今日的教育課題			授業内容の復習（30分）				
3	〃	保健体育教員を目指すには 出身地の「教員採用選考試験の動向」についてのレポート			授業内容の復習（30分） レポート作成（2時間）				
4	〃	保健体育教員に求められる資質・能力とは			授業内容の復習（30分）				
5	〃	体育授業の指導1			授業内容の復習（30分）				
6	〃	体育授業の指導2			授業内容の復習（30分）				
7	〃	体育授業の指導3			授業内容の復習（30分）				
8	〃	体育理論授業の指導			授業内容の復習（30分）				
9	〃	保健授業の指導1			授業内容の復習（30分）				
10	〃	保健授業の指導2			授業内容の復習（30分）				
11	〃	運動部活動の指導 「運動部活動の在り方」についてのレポート			授業内容の復習（30分） レポート作成（2時間）				
12	〃	学級担任の仕事			授業内容の復習（30分）				
13	〃	教育実習のねらいと実際			授業内容の復習（30分）				
14	〃	教育実習Q＆A			授業内容の復習（30分）				
15	〃	教員採用選考試験合格を目指して			授業内容の復習（30分）				
16	〃	学期末試験			学期末試験内容の復習（30分）				

授業科目名 (ナンバリングコード)	保健体育科教育法Ⅱ (152A0-1301)		授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (専門)			
担当教員名	浜田 幸史・梶 ちか子				補助担当者名				
単位数	2 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数	170名程度		
授業の概要	本授業は、学習指導要領の内容を基盤として、保健体育を構成している各運動領域、体育理論及び保健について解説し、学校における保健体育学習に対する総括的な理解を深めることをねらいとする。このことを通して、保健体育学習の「目標－内容－指導－評価」の一体化を図る指導の在り方や授業の構造について理解を深め、単元及び単位時間の授業計画立案についての基礎知識を習得するよう取り組む。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、専門的な知識・教養 (事業運営力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	保健体育科の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い等について理解している。			○		○		50	
■情意的領域	保健体育を構成している各運動領域、体育理論、保健について理解を深め、授業に積極的に参画しようとする。	○			○			30	
■技能的領域	年間指導計画、単元計画、単位時間の指導計画及び学習指導案を作成することができる。	○		○				20	
成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のと通りの割合で、授業への参画状況や、レポート、定期試験等の内容から総合的に評価します。また、3分の2以上の出席がない場合、履修放棄とみなし、定期試験の受験を認めません。								
テキスト、教材 参 考 書	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編』及び『高等学校学習要領（平成30年告示）解説保健体育編 体育編』国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 保健体育】』及び『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 保健体育』								
履修条件・ 関連科目	原則として、保健体育科教育法Ⅰを履修し、その単位を修得していることを履修条件とします。 3年次の保健体育科教育法Ⅲ及びⅣ、4年次の教育実習Ⅰ・Ⅱの基礎固めとなる授業になります。 関連科目は、教職科目全般です。		備考(教員メッセージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。 学習指導要領の内容を理解し、学習指導案を作成できるようになることが、3年次の保健体育科教育法Ⅲ、保健体育科教育法Ⅳ、4年次の教育実習の充実につながります。					
オフィス・アワー	随時：浜田（研究棟6階608教員研究室） 梶（研究棟7階703教員研究室）								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	浜田 幸史 梶 ちか子	オリエンテーション 保健体育科とは			授業内容の復習（30分）				
2	〃	学習指導要領とは			授業内容の復習（30分）				
3	〃	体育学習の指導①（体づくり運動）			授業内容の復習（30分）				
4	〃	体育学習の指導②（器械運動）			授業内容の復習（30分）				
5	〃	体育学習の指導③（陸上競技）			授業内容の復習（30分）				
6	〃	体育学習の指導④（水泳）			授業内容の復習（30分）				
7	〃	体育学習の指導⑤（球技）			授業内容の復習（30分）				
8	〃	体育学習の指導⑥（武道）			授業内容の復習（30分）				
9	〃	体育学習の指導⑦（ダンス）			授業内容の復習（30分）				
10	〃	体育学習の単元計画・学習指導案の作成			学習指導案の作成（3時間）				
11	〃	体育学習の単元計画・学習指導案の作成			学習指導案の作成（3時間）				
12	〃	体育学習の指導⑧（体育理論） 学習指導案（体育分野）の提出			授業内容の復習（30分）				
13	〃	保健学習の指導			授業内容の復習（30分）				
14	〃	保健学習の単元計画・学習指導案の作成			学習指導案の作成（3時間）				
15	〃	保健学習の単元計画・学習指導案の作成、授業のまとめ			学習指導案の作成（3時間）				
16	〃	学期末試験 学習指導案（保健分野）の提出			学期末試験内容の復習（30分）				

授業科目名 (ナンバリングコード)	保健体育科教育法Ⅲ (152B0-3300)		授業形態	講義・演習		授業科目区分		教職科目 (専門)			
担当教員名	浜田 幸史・梶 ちか子・鶴木 親志					補助担当者名					
単位数	2 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		120名			
授業の概要	保健体育科教育法Ⅰ及び保健体育科教育法Ⅱで身に付けたことを踏まえて、4年次の教育実習に向けた実践力を身に付けるために、保健体育科の目標や内容、指導法、評価法等について理論と実際を往還しながら、単元構造図、学習指導案等を作成して模擬授業を行う。 模擬授業の実施に当たっては、選択領域を「球技」、「体づくり運動」、「体育理論・保健」の3つに分け、その中から各自で2領域を選択して、週休日に計画する5時間の集中講義において2回ずつの模擬授業を行う。その他に5時間の平常授業を実施する。										
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法							
	D Pで 目指す 資質・ 能力	事業運営力、指導者基礎力、専門的な知識・ 教養 (指導者基礎力、リーダーシップ)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %		
			授業	テスト	レポート	発表					
			■認知的領域	指導と評価の計画、教材・教具の作成、模擬授業、授業研究等に関する基本的事項を理解している。			○				20
			■情意的領域	指導と評価の計画、教材・教具の作成、模擬授業、授業研究等に関する基本的事項を理解するために、授業に自主的に参画しようとする。	○			○			30
■技能的領域	指導と評価についての計画を作成することができる。 基本的な指導技術を用いて、模擬授業を行うことができる。	○				○			50		
成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のと通りの割合で、授業への参画状況や、レポート等の内容から総合的に評価します。また、3分の2以上の出席がない場合、履修放棄と見なします。なお、定期試験は行いません。										
テキスト、教材 参 考 書	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編』 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 保健体育】』										
履修条件・ 関連科目	原則として、保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱを履修し、その単位を修得していることを履修条件とします。 通常の授業5回の他に、週休日等に5時間の集中講義を複数回実施します。その内の2回の集中講義に出席可能であることを確認して履修してください。 なお、模擬授業グループの編成をするため、必ず事前に履修登録を済ませ、第1回目の授業に出席してください。		備考(教員メッセージ含む)		実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適應できるよう指導していきます。 授業力の高まりは、4年次の教育実習の充実につながります。						
オフィス・アワー	随時：浜田（研究棟6階608教員研究室） 梶（研究棟7階703教員研究室）										
授業計画											
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	浜田 幸史 梶 ちか子 鶴木 親志	オリエンテーション、授業づくり 模擬授業グループの編成				授業内容の復習（30分）					
2	〃	授業づくりの実際 模擬授業グループの確認				授業内容の復習（30分）					
3	〃	集中講義1に向けた模擬授業の役割分担、授業構想等				授業内容の復習（1時間）					
4	〃	集中講義1（4～8回）5～6月の週休日等での実施 集中講義1－① 指導と評価の計画、教材・教具の作成等									
5	〃	集中講義1－② 指導と評価の計画、教材・教具の作成等									
6	〃	集中講義1－③ 模擬授業、授業研究等									
7	〃	集中講義1－④ 模擬授業、授業研究等									
8	〃	集中講義1－⑤ 模擬授業、授業研究等				模擬授業の反省と分析（2時間）					
9	〃	集中講義2に向けた模擬授業の役割分担、授業構想等				授業内容の復習（1時間）					
10	〃	集中講義2（10～14回）6～7月の週休日等での実施 集中講義2－① 指導と評価の計画、教材・教具の作成等									
11	〃	集中講義2－② 指導と評価の計画、教材・教具の作成等									
12	〃	集中講義2－③ 模擬授業、授業研究等									
13	〃	集中講義2－④ 模擬授業、授業研究等									
14	〃	集中講義2－⑤ 模擬授業、授業研究等				模擬授業の反省と分析（2時間）					
15	〃	模擬授業の振り返り・まとめ、よりよい授業づくり				授業内容の復習（30分）					

授業科目名 (ナンバリングコード)	保健体育科教育法Ⅳ (152B0-3301)		授業形態	講義・演習	授業科目区分	教職科目 (専門)						
担当教員名	浜田 幸史・梶 ちか子・鶴木 親志				補助担当者名							
単位数	2 単位		履修年次	3年次	受け入れ人数	120名						
授業の概要	保健体育科教育法Ⅰ及び保健体育科教育法Ⅱで身に付けたこと、保健体育科教育法Ⅲにおける模擬授業の実践を踏まえ、4年次の教育実習に向けて、より高い実践力を身に付けるために、保健体育科の目標や内容、指導法、評価法等について理論と実際を往還しながら、学習指導案等を作成して模擬授業を行う。また、撮影した動画を視聴し、授業者の指導技術等について分析を行う。 模擬授業の実施に当たっては、選択領域を「体づくり運動・器械運動・ダンス」、「球技・武道」、「体育理論・保健」の3つに分け、その中から各自で2領域以上を選択して、2回以上の模擬授業を行う。 授業分析を通じて、保健体育科教育法Ⅲより、さらに高い授業実践力を育成することをねらいとする。											
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法									
	D Pで 目指す 資質・ 能力	事業運営力、コミュニケーション力、専門的な知識・教養 (指導者基礎力、リーダーシップ)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %			
			授業	テスト	レポート	発表						
		■認知的領域	指導と評価の計画、教材・教具の作成、模擬授業、授業研究等に関する基本的事項を理解し、指導上の留意点等を説明している。			○						20
		■情意的領域	指導と評価の計画、教材・教具の作成、模擬授業、授業研究等に関する基本的事項を理解し、指導上の留意点等を説明するために、授業に自主的に参画しようとする。	○						○		30
■技能的領域	指導と評価についての計画を作成することができる。 基本的な指導技術を用い、自分なりの工夫を図って、模擬授業を行うことができる。	○			○		50					
成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとりの割合で、授業への参画状況や、レポート等の内容から総合的に評価します。また、3分の2以上の出席がない場合、履修放棄とみなします。なお、定期試験は行いません。											
テキスト、教材 参 考 書	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編』 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 保健体育】』											
履修条件・ 関連科目	原則として、保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修し、その単位を修得していることを履修条件とします。 学習指導案作成や授業分析等、授業時間外の学習時間の確保が必要です。その時間確保が可能であることを確認して履修してください。 なお、模擬授業グループの編成をするため、必ず事前に履修登録を済ませ、第1回目の授業に出席してください。		備考(教員メッセージ含む)		実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。 授業力の高まりは、4年次の教育実習の充実につながります。							
オフィス・アワー	随時：浜田（研究棟6階608教員研究室） 梶（研究棟7階703教員研究室）											
授業計画												
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)							
1	浜田 幸史 梶 ちか子 鶴木 親志	オリエンテーション 模擬授業グループの編成			授業内容の復習（30分）							
2	〃	授業づくり、授業分析の実際 模擬授業グループの確認			授業内容の復習（30分）							
3	〃	第1ピリオド① 授業づくり 学習指導案等の作成			学習指導案等の作成（3時間）							
4	〃	第1ピリオド② 模擬授業、授業分析			授業分析等（1時間30分）							
5	〃	第1ピリオド③ 模擬授業			授業分析等（1時間30分）							
6	〃	第1ピリオド④ 模擬授業、授業分析			授業分析等（1時間30分）							
7	〃	第2ピリオド① 授業づくり 学習指導案等の作成			学習指導案等の作成（3時間）							
8	〃	第2ピリオド② 模擬授業、授業分析			授業分析等（1時間30分）							
9	〃	第2ピリオド③ 模擬授業、授業分析			授業分析等（1時間30分）							
10	〃	第2ピリオド④ 模擬授業、授業分析			授業分析等（1時間30分）							
11	〃	第3ピリオド① 授業づくり 学習指導案等の作成			学習指導案等の作成（3時間）							
12	〃	第3ピリオド② 模擬授業、授業分析			授業分析等（1時間30分）							
13	〃	第3ピリオド③ 模擬授業、授業分析			授業分析等（1時間30分）							
14	〃	第3ピリオド④ 模擬授業、授業分析			授業分析等（1時間30分）							
15	〃	模擬授業・授業分析の振り返り・まとめ			授業内容の復習（30分）							

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育実習Ⅰ (152C0-6300)		授業形態	実習	授業科目区分	教職科目 (専門)				
担当教員名	浜田 幸史・梶 ちか子・鶴木 親志				補助担当者名					
単位数	5 単位		履修年次	4 年次	受け入れ人数	—				
授業の概要	「中学校教諭一種免許状（保健体育）」並びに「高等学校教諭一種免許状（保健体育）」の取得希望者は、教育実習Ⅱではなく、本授業を選択する。実習前には、教育実習の意義や目的を正しく理解し、学習指導案の作成等を通して、適切な生徒対応や学習指導等について説明できるようにする。実習中は、授業実践をはじめとして教育活動全般に主体的に関わり、教職についての見識を深めることに努める。実習後は、自身の取組を振り返り、より高い実践力を身に付けるためにできることを整理する。 なお、事後指導や教職実践演習での授業分析等に活用するために、教育実習における研究授業等の様子を撮影できるよう、実習校に事前に承諾を得る。									
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、コミュニケーション力、専門的な知識・教養 (事業運営力、リーダーシップ)	授業期間			定期 試験	その他	割合 %		
			授業	テスト	レポート				発表	
		■認知的領域	教育実習の意義や目的を理解し、適切な生徒対応や学習指導等について説明している。	○		○				20
		■情意的領域	学習指導案作成、授業実践をはじめとする教育活動全般、事後の振り返り等に主体的に取り組もうとする。	○			○			30
■技能的領域	生徒の実態に応じた学習指導案を作成し、適切な生徒対応や学習指導等について説明することができる。 基本的な指導技術を用い、自分なりの工夫を図って授業を行うことができる。また、自分なりの視点をもって授業分析ができる。	○		○				50		
成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のと通りの割合で、授業への参画状況や、学習指導案、事後レポート、事後提出物（所感、手引き、評価票、出勤簿）の内容、実習成績から総合的に評価します。また、事前指導において3分の2以上の出席がない場合、履修放棄とみなし、教育実習への参画を認めません。事前・事後指導において3分の2以上の出席がない場合も履修放棄とみなします。なお、定期試験は行いません。									
テキスト、教材 参 考 書	鹿屋体育大学『教育実習の手引き』 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編』及び『高等学校学習要領（平成30年告示）解説保健体育編 体育編』 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 保健体育】』及び『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校 保健体育】』									
履修条件・ 関連科目	原則として、保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修し、その単位を修得しており、履修要項「教育実習参加資格」を満たしていることを履修条件とします。 事前指導（教員から指示された回）にスーツ等で出席すること、教育実習前に時間的なゆとりをもって学習指導案を作成し提出することを遵守してもらいます。なお、学習指導案については、教員の指導助言を受け、一定レベル以上のものを作成してもらいます。 また、必ず事前に履修登録を済ませ、第1回目の授業に出席してください。		備考(教員メッセージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。 単位修得不足で教育実習参加資格を満たすことができず、教育実習を辞退せざるを得ないケースがあります。教育実習校へ多大な迷惑をかけることになりますので、確実に参加できるよう、確認をお願いします。						
オフィス・アワー	随時：浜田（研究棟6階608教員研究室） 梶（研究棟7階703教員研究室）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	浜田 幸史 梶 ちか子 鶴木 親志	オリエンテーション 教育実習の意義・目的・内容			授業内容の復習（30分）					
2	〃	単元計画及び学習指導案の作成指導			学習指導案の作成（3時間）					
3	〃	学習指導案の作成指導			学習指導案の作成（3時間）					
4	〃	外部講師による講話「教育実習を行うに当たって」			授業内容の復習・レポート作成（1時間）					
5	〃	教育実習への最終確認と教師としての心構え			授業内容の復習・携行品等の確認（1時間）					
6	〃	教育実習（6～12回は実習校での実践活動）			実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）					
7	〃	教育実習			実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）					
8	〃	教育実習			実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）					
9	〃	教育実習			実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）					
10	〃	教育実習			実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）					
11	〃	教育実習			実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）					
12	〃	教育実習			実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）					

13	〃	事後指導（教育実習の振り返り、礼状の作成等）	礼状の作成等（3時間）
14	〃	事後指導（所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等）	所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等（3時間）
15	〃	事後指導（所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等）	所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等（3時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育実習Ⅱ (152C0-6301)		授業形態	実習	授業科目区分	教職科目 (専門)				
担当教員名	浜田 幸史・梶 ちか子・鶴木 親志				補助担当者名					
単位数	4 単位		履修年次	4年次	受け入れ人数	－				
授業の概要	「高等学校教諭一種免許状（保健体育）」のみの取得希望者は、教育実習Ⅰではなく、本授業を選択する。 実習前には、教育実習の意義や目的を正しく理解し、学習指導案の作成等を通して、適切な生徒対応や学習指導等について説明できるようにする。実習中は、授業実践をはじめとして教育活動全般に主体的に関わり、教職についての見識を深めることに努める。実習後は、自身の取組を振り返り、より高い実践力を身に付けるためにできることを整理する。 なお、事後指導や教職実践演習での授業分析等に活用するために、教育実習における研究授業等の様子を撮影できるよう、実習校に事前に承諾を得る。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、コミュニケーション力、専門 的な知識・教養 (事業運営力、リーダーシップ)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的 領域	教育実習の意義や目的を理解し、適切な生徒 対応や学習指導等について説明している。	○		○				20
		■情意的 領域	学習指導案作成、授業実践をはじめとする 教育活動全般、事後の振り返り等に主体的 に取り組もうとする。	○			○			30
■技能的 領域	生徒の実態に応じた学習指導案を作成し 、適切な生徒対応や学習指導等について説明 することができる。 基本的な指導技術を用い、自分なりの工夫 を図って授業を行うことができる。また、自分 なりの視点をもって授業分析ができる。	○		○				50		
成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のと通りの割合で、授業への参画状況や、学習指導案、事後レポート、事後提出物（所感、手引き、評価票、出勤簿）の内容、実習成績から総合的に評価します。また、事前指導において3分の2以上の出席がない場合、履修放棄と見なし、教育実習への参画を認めません。事前・事後指導において3分の2以上の出席がない場合も履修放棄と見なします。なお、定期試験は行いません。									
テキスト、教材 参 考 書	鹿屋体育大学『教育実習の手引き』 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編』及び『高等学校学習要領（平成30年告示）解説保健体育編 体育編』 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 保健体育】』及び『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校 保健体育】』									
履修条件・ 関連科目	原則として、保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱを履修し、その単位を修得しており、履修要項「教育実習参加資格」を満たしていることを履修条件とします。 事前指導（教員から指示された回）にスーツ等で出席すること、教育実習前に時間的なゆとりをもって学習指導案を作成し提出することを遵守してもらいます。なお、学習指導案については、教員の指導助言を受け、一定レベル以上のものを作成してもらいます。 また、必ず事前に履修登録を済ませ、第1回目の授業に出席してください。		備考(教員メッセージ含む)		実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。 単位修得不足で教育実習参加資格を満たすことができず、教育実習を辞退せざるを得ないケースがあります。教育実習校へ多大な迷惑をかけることになりますので、確実に参加できるよう、確認をお願いします。					
オフィス・アワー	随時：浜田（研究棟6階608教員研究室） 梶（研究棟7階703教員研究室）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	浜田 幸史 梶 ちか子 鶴木 親志	オリエンテーション 教育実習の意義・目的・内容			授業内容の復習（30分）					
2	〃	単元計画及び学習指導案の作成指導			学習指導案の作成（3時間）					
3	〃	学習指導案の作成指導			学習指導案の作成（3時間）					
4	〃	外部講師による講話「教育実習を行うに当たって」			授業内容の復習・レポート作成（1時間）					
5	〃	教育実習への最終確認と教師としての心構え			授業内容の復習・携行品等の確認（1時間）					
6	〃	教育実習（6～12回は実習校での実践活動）			実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）					
7	〃	教育実習			実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）					
8	〃	教育実習			実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）					
9	〃	教育実習			実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）					
10	〃	教育実習			実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）					
11	〃	教育実習			実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）					
12	〃	教育実習			実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）					

13	〃	事後指導（教育実習の振り返り、礼状の作成等）	礼状の作成等（3時間）
14	〃	事後指導（所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等）	所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等（3時間）
15	〃	事後指導（所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等）	所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等（3時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	教職実践演習（中・高）			授業形態	演習		授業科目区分		教職科目 (専門)		
担当教員名	教職教育等小委員会・濱田 幸二・森 克己・浜田 幸史・中本 浩揮・永原 隆・梶 ちか子・ 下川 美佳・坂中 美郷・小森 大輔・藤井 雅文・栗山 靖弘						補助担当者名				
単位数	2 単位			履修年次	4		受け入れ人数	150名			
授業の概要	本授業は、教職科目を中心とする全学年の学びを通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものである。履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようにする。 ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項について、ICTの積極的な活用を図りながら、グループ討論や事例研究等をして学びを深める。 なお、原則として2～4限に連続して開講し、複数の小グループから成る小クラスを編成して、授業を展開する。										
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法							
	D Pで 目指す 資質・ 能力	事業運営力、指導者基礎力、専門的な知識・ 教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %		
			授業	テスト	レポート	発表					
			■認知的領域	授業で取り扱う4つの事項の基本的内容を理解し、その課題や対応上の留意点等を説明している。			○	○			30
			■情意的領域	授業で取り扱う4つの事項の内容を深く理解したり、その課題解決を図ったりするために、グループ討論や事例研究等に能動的に参画しようとする。	○			○			35
■技能的領域	授業で取り扱う4つの事項の内容の考察、その課題解決についての思いや考えを他者にわかりやすく伝えることができる。			○	○			30			
成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のと通りの割合で、授業への参画状況やレポート等の内容から総合的に評価します。また、3分の2以上の出席がない場合、履修放棄とみなします。なお、定期試験は行いません。										
テキスト、教材 参 考 書	鹿屋体育大学『教職実践演習の手引き』										
履修条件・ 関連科目	教育実習を履修し、その単位を修得していること、または修得見込みであることを履修条件とします。 なお、必ず事前に履修登録を済ませ、第1回目の授業に出席してください。			備考(教員メッセージ含む)		教員免許状を取得するための必修科目、大勢の学内外の教員による授業科目です。学校現場に適切できるよう指導していきます。					
オフィス・アワー	【1班】濱田(幸二)：随時対応可（805教員室、16時以降は球技体育館準備室） 【2班】下川：随時対応可（505教室） 【3班】栗山：随時対応可（605教員室）・永原 【4班】山本（一）：事前にメールでアポをとること（308教員室） 【5班】浜田：随時対応可（608教員室）・梶：随時対応可（703教員室）										
授業計画											
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	教職教育等小委員会 浜田 幸史	全体オリエンテーション				テキストの予習（30分以上）					
2	教職教育等小委員会 中本 浩揮	【2限】社会性や対人関係能力に関する事項				テキストの予習（30分以上）					
3	〃	【3限】 〃 演習				テキストの予習・復習（30分以上）					
4	〃	【4限】 〃 演習				テキストの予習・復習（30分以上）					
5	教職教育等小委員会 森 克己	【2限】生徒理解や学級経営等に関する事項：子どもの人権保障の観点から				テキストの予習（30分以上）					
6	〃	【3限】 〃 ロールプレイ				テキストの予習・復習（30分以上）					
7	〃	【4限】 〃 ロールプレイ				テキストの予習・復習（30分以上）					
8	教職教育等小委員会 梶 ちか子	【2限】教科の指導力に関する事項				テキストの予習（60分以上）					
9	〃	【3限】 〃 課題検討				テキストの予習・復習（60分以上）					
10	〃	【4限】 〃 課題検討				テキストの予習・復習（60分以上）					
11	教職教育等小委員会 濱田 幸二	【2限】使命感や責任感等に関する事項				テキストの予習（30分以上）					
12	〃	【3限】 〃 課題討論				テキストの予習・復習（30分以上）					
13	〃	【4限】 〃 課題討論				テキストの予習・復習（30分以上）					
14	教職教育等小委員会 浜田 幸史	【3限】教育現場で求められること				テキストの予習・復習（30分以上）					
15	〃	【4限】まとめ				テキストの予習・復習（30分以上）					